

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2021 年 12 月 1 日 発行
(通巻 491 号) 定価 100 円

現代座レポート No. 88

- ・第 5 回 平右衛門研究会開催 (1)
- ・「風は故郷へ」の舞台に立ってみて 相良孝雄 (2-3)
- ・「われらいずこより来たる」(1963 年) 木村快 (4-6)
- ・岡田京子さんと歌う会・緑町ふれあいサロン (7)
- ・現代座会議報告 会館日誌 会員入会・継続・寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

第 5 回平右衛門研究会開催

現代座公演「武蔵野の歌が聞こえる」をきっかけに結成された「川崎平右衛門顕彰会・研究会」ですが、今年は 5 年目を迎え、小平市のルネこだいら中ホールで 11 月 19 日に開催されました。昨年に引き続きコロナ禍の中なので、会場の入場人数は定員の半分以下で離れて座り、マイクも消毒しながらという状況でしたが、98 人の方が参加してくださいました。

昨年は病気のため参加出来なかった会長の大石学東京学芸大学名誉教授の講演「川崎平右衛門の武蔵野新田政策の歴史的 position」に始まり、立川市史編さん室の武田真幸さんの研究発表「川崎平右衛門の新田助成制度『養料金併溜雑穀』の意義と影響」、国立歴史民俗博物館客員准教授・三野行徳さんの研究発表「『名代官』の先駆としての武蔵野新田世話役川崎平右衛門」が行われました。

続いて小平での協同づくりをテーマにパネルディスカッションが行われ、日本社会連帯機構代表理事の永戸祐三さんをコーディネーターに、ケアタウン小平で在宅診療をしている山崎章郎医師、東京農工大学名誉教授の淵野雄二郎さん、学習型体験農園「みのり村」村長粕谷英雄さん、ワーカーズコープ三多摩山梨事業本部長扶穂文重さんが語りました。

今年は研究会のプレイベントとして現代座の合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」の DVD 上映会が 9 月 23 日に「ルネこだいら」レセプションホールで行われました。上映後にはワーカーズコープの相良孝雄さんの進行で、脚本・演出の木村快のアフタートークも行われました。

この上映は大変好評で、11 月 19 日の研究会当日にも午前中に急遽上映会が開かれました。芝居はナマでみるものとこだわっていた現代座ですが、上映で伝えられるものもあるし、この作品はこれからもっと大事にしたいと考えています。



◆小平市「ルネこだいら」中ホールでのパネルディスカッション



◆プレ・イベントで「武蔵野の歌が聞こえる」の DVD による舞台動画が上映されました。

協同の風を感じ

地域で協同の文化をつくる

「コモンズ（共通財産）の拠点へ

「風は故郷へ」の舞台に立ってみたい

相良 孝雄

協同総合研究所・現代座会員



◆舞台に出るきっかけ

私はワーカースコープが母体になって設立された研究所で働いています。月刊誌「協同の発見」の編集長として、全国で協同に価値を置く実践や研究の調査・政策提言・交流・学びを推進しています。

そんななかで、「武蔵野の歌が聞こえる」を通じて、木村快さんと出会い、現代座や前身の統一劇場の時代から「協同」をテーマに芝居がつけられていることを感じながら、快さん、木下美智子さんはじめ現代座の皆さんと継続的に交流をさせていただいています。

あるとき快さんから、「相良くん、協同は頭で考えるだけじゃなく、劇場の舞台に立って、演者と観客の間に起こる共鳴共感を体感すると、身体で理解できるんじゃないかな」との提案をいただきました。芝居を通じてどのように協同を感じるのかに興味があったこともあり、芝居に参加しました。

しかしワーカースコープから私一人だけが出るのも寂しいと考え、今年ワーカースコープで働き始めた新人の全国事務局候補の研修の場としても活かせないかと考えました。それは快さんや現代座の歴史から「協

上・事前学習は3日間。

「劇場は人類の協同から生まれた」歴史を学ぶ。
下・初日舞台終了後のワーカースコープの若者。左端は木村快



同」を「学ぶ」とともに、舞台に立って「協同」を「体感すること」ができるのではないかと感じたからです。また人前で演じることで、自分のことを相手に解き放つ（自己表現）上でも意味のある場になると考えられます。

◆芝居がつけられる過程のなかで、現代座とワーカースコープとの共通点を感じる

8月4日、6日、18日の稽古に参加しましたが、その雰囲気として、ワーカースコープの現場と似たような雰囲気があると感じました。それは「温かい雰囲気」で迎え入れていただいたことと「演出の八木澤さんの話が絶対ではなく、各役者が工夫しながら、よい芝居をつくらう」と努力されている点でした。演出家は方向性を示しますが、役者から意見があったときに、

対話をしながら進めていくプロセスをとっており、話し合える雰囲気があったと思います。テレビ等で見る演出家のイメージは、強烈なダメ出しをして役者を指導するイメージが強かったので、それとのギャップも自分にはあったと思います。

また稽古を通じて、個性・キャリアも含めて、多様な方々が演者となっており、老若男女が徐々に混ざり合いながら、一つの作品の完成に向けて稽古していたのが印象的でした。

自分の出番・言葉などは、すぐにアドリブで対応できないものもありましたが、せりふの際に、前（客席）と横（演者同士）に向くときのタイミング、自分の意思を伝えるときに大切にしたいこと（特に非言語的なコミュニケーション）を意識して稽古に臨みました。

参加した新人事務局メンバーの様子を見ると、みるみる声の大きさ、明瞭さ、表情が柔らかくなるなど、演じることを通じて、相手に伝えるためにどのようにすればいいのかを意識した仲間も多くなりました。また事前学習の場では、快さんの戦前・戦中・戦後の国民学校、引き揚げ、失対事業に関わっていたこと等の貴重な話を聞かせていただいたことは、時代を超えて知らない世界に触れる場になったと思います。

◆芝居当日

一番初めに感じたことは、当たり前ですが、木下美智子さんが役者である（笑）ということでした。どうしても現代座の事務局、オーガナイザーのイメージが強かったのですが、木下さんは役者としても、何が来ても受けとめ、返してくれるように感じました。

途中までは出番がなかったのですが、客席から芝居を観ていたのですが、演者の皆さんの演技に圧倒されました。特に声の反響、目線とその凄みがある黒沢義之さん、発声の素晴らしい永野和宏さん、長谷川葉月さん、元気がはじける孫娘役の環幸乃さん、仲間を包み込む感じの中村保好さん、八木浩司さんなどです。自分の出番のときには、楽しく演じることができました。それはきつと素人は素人のままで自分を表現しようと思えたことが大きかったように思います。そのようにさせたのは、八木澤さんはじめ、役者の皆さんと現代座の雰囲気があったと思います。

芝居全体を通じて役者だけではなく、音響・光・舞台セット・背景の星空等、カーテン・映像など、快さんがいつも言われますが、芝居は総合芸術であり、お客さんも役者の演じ方も違うので、一期一会の世界であることを実感しました。公演一つひとつを大切にすることは、一つひとつの出会いや一日一日を大切に生きていくことにもつながると感じました。

29日の芝居終了後、後片付けも一緒にさせていただきました。八木澤さん、八木さんの案内のもと、みなさんテキパキと動いていました。そのなかでも一番驚かされたのは和尚さんを演じた木の下敬志さんの手捌きです。リフォームの仕事も手掛けているそうで、セットの崩し等も早く見事です。また皆さん楽しく片付けをされており、それぞれの得意分野を活かして進めており、そこでとても「協同」を感じました。みんなが心と力をあわせて、次回公演をする際のことを考えながら、片づけました。片づけ終わってやっと私も仲間になれたのかなとも勝手に実感していました。

コロナ禍でも公演できたことは何よりもよかったですし、感染予防のため80人定員を40人に削減した公演で心配しましたが、全日満杯となってほっとしました。あらためて現代座に魅力を感じている人が多くいることの証拠だと感じました。

◆現代座が地域で愛され続け、協同の文化をつくる「モン」（共通財産）として

集落の指導者の孫娘を演じる環幸乃さんは「芝居に来るお客さんは普通「役者」についてきますが、現代座の芝居は「現代座」という看板で知られますね」と話すのを聞いて、現代座は愛されていると感じました。最終日には、若い方（私から見て20代〜30代の方々が10人程度はいました。役者の皆さんのつてや関係者が多いと思いますが、今後、若い人も現代座に入ることができるような雰囲気・環境を継続的につくれたらと思っています。また近くにお住まいの方でも、「何十年かぶりに来た」という方も3人から聞きました。現代座が地域で果たす役割も深めていきたいと感じました。

2020年12月に労働者協同組合法が成立し、就労の創出を通じて、持続可能で活力のある地域社会をつくることを目指す労働者協同組合法人が数多く設立される気運のなかで、地域の和尚役、木の下敬志さんがせりふで話されていた「新たな協同組合をつくる」とは、労働者協同組合と重なることを感じ、時機を捉える芝居内容だったと考えています。芝居の中では新たな協同組合をつくる担い手としてコーラスグループが描かれており、ワーカーズの若者がそのグループを演じました。私もその一員として出演したのですが、

まさしくそのコーラスグループの役割を担うのがワーカースコープではないかと感じました。その配役を八木澤さんや木下美智子さんが意図的に考えたのかとも思いました（笑）。

今後、現代座を拠点にしながら、労働者協同組合や協同労働に関わる学習会や地域課題を交流しあう地域懇談会、仕事おこし懇談会も開催したいと思っています。現代座会館が地域の協同の文化をつくる「モン」（共通財産）として、新たな役割を担えるような動きを一緒につくりたいと思いました。



◆上演が終了し、上演者たちが観客に感謝する儀式を「カーテンコール」と呼ぶ。後列の7人はワーカースコープの若者たち。

木村ノート◆われらいずこより来たる 第2部◆
1963年 新制作座文化センター
木村 快

前回までの記述

★レポート81号 1950年、新劇運動の分裂
戦時中、弾圧を受けた新協劇団は敗戦後復活するが、ソ連支持派と中国支持派の対立で1950年に新協劇団も分裂。中間派は「ヴェリテ・せるくる」を設立。

★レポート82号 1951年、新制作座のスタート
演劇観の違いからヴェリテ・せるくるは半年で解散。真山美保、草村公宣、榎村浩吉で新制作座としてスタート。

★レポート83号 1954年、庶民の新劇をめざして。真山美保の『泥かぶら』、炭鉱労働者と旅の一座の交流を描いた『馬五郎一座顛末記』が注目を集め、労働組合関係者の支持で全国公演が始まる。

★レポート84号 1959年① 不思議な学校
「哲学・思想史」中心の特別研究所開設。

★レポート85号 1959年② 全国巡演活動の実態
『馬五郎一座顛末記』で北海道の炭鉱地帯の巡演が始まる。これは日本新劇史上画期的なことだった。

★レポート86号 1960年 安保闘争。
新劇人デモ行進ではいつも中心を担った。平和集會では国際的要人からも注目が集まり、インドネシア共和国から招請されることになった。

★レポート87号 1963年①
インドネシア訪問日本文化使節団の公演記録

《新制作座文化センター》

【①・ユートピア構想から始まった大転換】

◆1960年代の社会状況

1960年代は東京タワーが完成し、池田内閣の所得倍増論が席卷した。そして何より1960年の安保騒動は日本の若者たちを一挙に政治づかせた。そして1964年には日本は国際通貨基金（IMF）8条国に移行し、経済的先進国となった。カラーテレビが普及し、新幹線が走り、東京の街はオリンピックに向かってまっしぐらだった。

◆文化センター構想

新制作座も1960年には芝居班だけでなく、労働運動と連携して、歌と踊りを中心とした若者たちのフェスティバル班が2班編成され、3班活動になる。劇団員は1958年には60名前後だったのに、1960年には100名に達し、新しい稽古場が必要になった。

そこで浮かび上がったのが八王子市郊外の山間部に新しい拠点を作る計画だった。一劇団の稽古場ではなく、労働運動と連携し、勤労者を対象とした文化センターを建設しようという構想だった。

全国炭鉱労働組合、全織同盟、新聞労連、民間放送連合、映画演劇総連合、国鉄労組など全国88の団体から賛同書が寄せられ、あれよあれよという間に現実のものとなった。そして1962年1月、「財団法人新制作座文化センター」が法的に認可され、年金福祉事業団から2億円近くの融資を受け、八王子市元八王子町に2万坪の土地を取得し、建設にかかった。

ここで問題なのは、当時、労働運動内では反政府的な

左派と政府寄り右派の対立が起こっていた。新制作座としては左派の炭鉱労働組合も右派の紡績関係・全織同盟も、育ててもらった恩義があり、政府から巨額の融資を受けるとなると複雑だった。新制作座が政治的に揺れ始めるのはこうした背景がある。

◆政治活動との関係

新制作座はレポート81号で紹介したように、戦前、政府から弾圧を受けた新劇運動の流れを汲んだ劇団である。そのため労働運動や左派政党との提携は重要な課題であった。特に1960年の安保騒動以後は共産党系の民主青年同盟や社会党系の社会主義青年同盟の支持者が増えていたし、学生運動が盛んな時代だから入団前から政治活動にかかわっていた者もいて、新制作座内には劇団公認の共産党員グループがあった。こうした事情は新劇界ではごく一般的な現象だった。

ところがインドネシア訪問公演の話が持ち上がったとき、新劇界からは新制作座一劇団だけではなく、新劇界全体で送り出すべきだとする意見が多く、訪問公演団編成についての対立や混乱が発生する。

詳しいことは判らないが、新制作座において、若手劇団員に過ぎない木村快の学習活動批判が大幅に展開されたのは、劇団に左翼的な政治活動を持ち込ませまいとする態度表明だったようだ。

われわれがインドネシアに出発したあと、どのような話し合いがあったのかわからないが、党員グループの責任者だったY氏が突然退団し、消息を絶ってしまっただ。これがつまずきの初めだった。Y氏は人柄も明るく、若手のまとめ役的な存在であり、学習会世話役の木村を援助するアドバイザーでもあった。

【②・築地小劇場の系統】

◆「新劇」運動の歴史

今では「新劇」という言葉も消えてしまったが、日本の近代劇運動は歌舞伎などの古典演劇に対して「新劇」と称されていた。明治末期の小山内薫によって始められた「自由劇場」が発祥とされるが、大正12年の関東大震災で廃墟となった東京に、土方与志の出資で建てられた新劇の劇場が築地小劇場である。

ヨーロッパ近代劇に憧れる若者たちが結集し、無産者運動の影響もあって、社会変革をテーマにした舞台が展開されていた。昭和期に入ると治安維持法への批判が強まり、反戦思想の演劇運動となった。そのため1940年（昭和15）に政府によって強制解散を命じられる。俳優たちは政府から鑑札を受けなければ一切の演劇的行為が不可能となり、やむなく政府指導の戦時慰問活動に従事することになる。

新制作座創立期の事情はレポート82号で紹介したが、真山美保、草村公宣、榎村浩吉はいずれも築地小劇場系統の俳優である。

真山美保は歌舞伎再興の祖と呼ばれる真山青果の長女。戦前の女性には珍しい昭和女子大國文科出身で、昭和18年の学徒出陣を見送った世代。当時、父青果は美保を前進座文芸部に預けたが、美保は父に反発し新劇の新協劇団に入団。新協分裂時は中間派のヴェリテ・せるくるに所属。ヴェリテ解散後に新制作座創立に参加。

草村公宣は戦前の日大芸術学部出身、宇野重吉と同時期に戦時中は共に戦時慰問劇団・瑞穂劇団で活動。敗戦後は新協劇団所属。ヴェリテ・せるくる解散後、新制作座創立に参加。



【上】新制作座機関誌47号（1963年9月）の表紙。正面の壁は築地小劇場を模したホールの屋上。

【下】200人収容の劇団員宿舎のベランダから中心部を望む。ホールの手前は広場とプール、本部・食堂が並ぶ。



榎村浩吉は劇団新築地から丸山貞夫に乞われ、戦時慰問劇団・さくら隊に所属、広島市で公演中に俳優調達のため大阪へ出かけた留守中、劇団は原爆の被爆で全滅。戦後はしばらくNHKの児童番組に出演していたが、真山美保と結婚。ヴェリテ解散後、新制作座の創立を提唱。

◆われらこそ築地小劇場の正統派

新協劇団の分裂（レポート81号）はやがて和解し、「東京芸術座」として一体化するが、どちらにもつかなくたヴェリテグループは映画やテレビに進出する。そして新制作座は独自に全国巡演の道を選ぶ。そのため新劇界では、「あれは新劇の正統派ではない」と言われていた。

新制作座文化センターの中心部に築地小劇場の図面に基づいた劇場を建てたのは、「われらこそ勤労者との提携を目指した築地小劇場の正統派である」とする戦前派新劇人の意地だったのかもしれない。

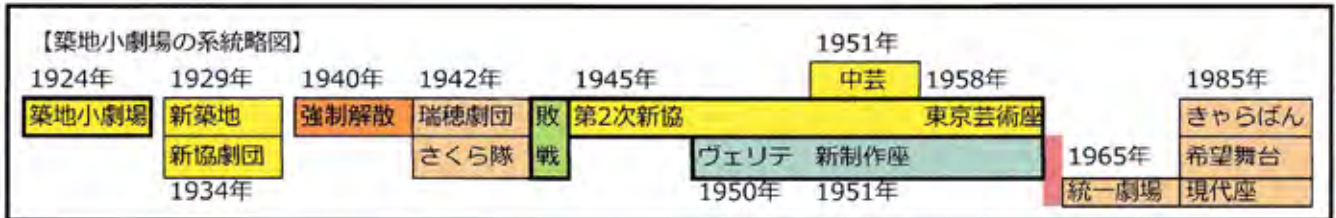
【③・舞台芸術・心身一体化の困難】

◆急激な人間集団の拡大による問題点

ユートピア建設はメディアから注目され、劇団員を

募集すれば多くの若者が押し寄せた。広いセンターはまるで大学のキャンパスのようににぎわいはじめた。本部の施設も拡大し、開設翌年の1964年には総員180名に達した。

しかし、集団が大規模になると、様々な問題が発生するようになる。ビジネス集団と違って俳優と観客の心の共鳴を創造する演劇集団は、慎重な拡大を図らないうと、その創造力の維持が困難になる。時代の波に乗って人員を拡大した新制作座は、まだ大幹部に指導される若者集団であり、自立できていなかった。1960年から急激に入団者が増え、3班活動になると、それまでのように現場で直接幹部から学ぶ機会は失われ、公演班リーダーは本部にお伺いを立てて現場を指導することになる。幹部は幹部で時勢には敏感だったが、現場から離れたため、若者集団の実態を把握できなくなっていた。



◆隔離された世界

1963年4月、4カ月間のインドネシア訪問公演を終えて帰国する

と、文化センターの工事はほぼ完成していた。緑に囲まれた谷間に劇場があり、プールがあり、図書館があり、大食堂、懇談ルームなど夢のような施設に、みんなは歓声を上げた。

センターが完成し、いよいよ劇団員宿舍へ入る段階になると、舞台の中心メンバーだったN君夫妻が劇団に出てこなくなつた。創立以来の事務局長Eさんもセンター完成後は退団するという。

8月、劇団員はそれぞれ杉並区の下宿を引き払い、文化センターへ入った。若者用の宿舍は原則二人部屋で、事務局の指定する先輩後輩の組み合わせだった。これでは気のあつた者同士が自由に語り合うというわけにも行かず、1週間も暮らしてみると、しだいに息苦しくなつていった。

杉並区の下宿生活なら、休日や稽古の終わった夜は気のあつた者同士で集まり、酒を飲みながら不満をぶちまけたり、歌つたりしたものである。だがセンター暮らしでは休日に街へ出ようとしても、バスを乗り継

いで30分かかる。これでは隔離施設ではないかと不満を言う者もいた。

◆「グンビークラ」の流行

グンビークラとはインドネシア語の「よろこび」とか「輝き」を意味する言葉である。インドネシア公演中、ぼくは一切誰とも口をきかず孤立した生活を送っていたが、次第に息苦しくなる公演活動の中で、密かに心を交わす仲間が生まれはじめた。そこで周囲に気づかれないように小さな紙切れに自分の思っていることをメモにし、発信人を明記しないでそつと手渡ししていた。この密かなつながりを「グンビークラ」と呼び、手渡すメモを「G報」と呼んでいた。

なぜかそのグンビークラが、知らぬ間にセンターの中で広がり始めていた。公演班が三つもあると全体が顔を合わせるには夏と正月くらいで、それぞれが経験したトラブルを含めて語り合う楽しみもあった。だが、休みの日でもなんとなく監視されているような雰囲気。センターではそうもいかない。そのためか、グンビークラは若者たちの新しい交流の手段となつた。

なんだかよくわからない時ほど、不安な何かと戦っているという連帯感が生まれるものだ。もちろん発信人不明が原則だから、誰と誰がつながっているかは判らない。これは管理者にとっては厄介な問題だった。

◆披露パーティー事件

8月に文化センターの披露パーティーが3日間開かれ、大勢の人がやってきた。偉い人たちは本部の社交室で劇団幹部と優雅に交流していたが、野外の広場では新制作座を支援するグループ「すすめる会」の若者たちが劇団の若者と肩を組んで労働歌を歌い、氣勢を上げ

ていた。それから3日間も続いたため、ついに真山美保の逆鱗に触れ、誰の企みかと摘発が始まった。

密かに私物検査がすすめられた。センターの集団生活は下宿と違って、私物検査は自由自在である。女性の浴場で、研究生の女性の私物から運悪くG報が摘発された。そこに「真山天皇」という記述があつて大騒ぎになり、幹事会では筆跡鑑定までやつたらしい。

◆烙印を押された者同士の連帯感

幹部は現場に足を持つ中堅劇団員を幹事に任命し、実態を把握させ、若者150人の中から60名ばかりの不適合者を選別した。不適合者は公演活動から外され、再教育のため教育班に組み込まれた。そうなるに逆にな烙印を押された者同士の連帯感が生まれ、心情的にはますます全体から離反していく結果を生んだ。

選別するため、研究生を含めた全員集会を開いた。「どんなことでもいいから、言いたいことを言いなさい」と言われ、若者たちは勝手な私物検査や私信の無断開封など、次々と不満を述べはじめた。すると中堅幹事たちはその一言一言に「何を言うんだ!」と怒鳴り返した。真山美保は青ざめた表情で自室に引き上げた。

◆ユートピアの破綻

組織が巨大化した新制作座は引き返しのつかない状態に追い込まれていた。かつて真山美保の意向が末端まで徹底できたのは、せいぜい30人内外が顔を合わせただけで一体化が可能だったからだ。しかし大組織となったユートピアは管理される集団にならざるをえない。心の共鳴が可能な小集団を基礎にしたユートピアは不可能なのか。それは永遠の課題なのかもしれない。

【以下次号】

新制作座の頃の歌を

岡田京子さんと歌う会



アコーディオン（左）岡田京子さん（右）中島成子さん
最後にマスクを取って、歌いながら記念撮影しました。

「♪祝えこの日、若者のいのち、豊かに溢れるこの日♪」
歌い始めるや否や草原の輝きのような、遠い昔のあの頃
がよみがえってきた。歌声はたくましく力強いが、大声で
張り上げている面々は皆、後期高齢者。白髪頭の向こうに
素敵だった舞台の姿がダブって見える。年甲斐もなく胸に
こみあがってくる熱いもの。それに負けじと一層声を張り
上げる。

この10月、現代座会館で希望舞台の新作『すまねえな』
を上演した。作者兼上演者のはやし・みさおが新制作座時

代の仲間だったことから、古い仲間にも声をかけたら多くの
仲間が集まってくれた。その最終日の送り出しで「あの
頃」を共にした新制作座の先輩後輩が、つい懐かしく♪祝
えこの日♪と歌ってしまった。この歌は岡田京子さんが作
曲した歌で、新制作座時代はいつもみんなで大合唱したも
のだった。

「日本中が私の劇場」と日本中を旅した「新制作座」で
私たちは時を共にした、感動も絶望も傷つきも、様々なこ
とを体験した。

今、時のふるいに掛けられて、残っているのは時代に問
いかけ、人間に問いかけながら歌い、芝居した豊かな日々
の感動。

お互いの顔をあらためて見直すと、新制作座に残った人、
初期統一劇場時代の人、さらに希望舞台やふるさとときやら
ばんへん分かれた人。お互いに「あれからどうしてた?」「あ
の人は今日来られなかったけど、次の機会にぜひ会いたい」
と懐かしさがよみがえってくる。

駅への道すがら「もっと歌いたい」と誰かが言ったら、
「祝えこの日」をつくったわれらが作曲家、岡田京子さん
は来年卒寿を迎えることが話題になり、そこで岡田さんの
前祝いをダシにして集まることになった。

さあ、みんな集まってくると、あの時のように大声を張
り上げて歌いはじめます。事情を知らない人が覗いたら、
現代座会館の一室は後期高齢者養護施設の音楽室のように
見えたに違いない。

「ありゃ?あの先輩少し認知がかってきたのかしら?」
と自分のことは棚にあげ、心で思った私でした。

八十九才の岡田さんの「まだまだ弾きます」という笑顔
がありました。

【希望舞台・玉井徳子】

「緑町ふれあいサロン」でスマホの習得

毎月第三木曜日に現代座の1階で開いている地域の
皆さんのおしゃべりの場「緑町ふれあいサロン」。
10月と11月は2階の会議室に場所を移して、スマホ講
座を行いました。

小金井市の介護福祉課包括支援係が行った「高齢者
のためのスマホ入門講座」にオンライン参加したので
す。いつも力を貸してもらっている小金井北包括支援セ
ンターの星野さんが来てくださって、実際に講座を
やっている会場とオンラインで繋いでくれました。

スクリーンに映し出される講師の先生のお話を聞き
ながらも、みんなでわいわいやっているといき聞き漏
らし、星野さんに直接教えてもらう事もたびたび。だっ
ておしゃべりしないでいることは難しいのです。スマ
ホについて

ははじめて
分かったこ
とも多く有
意義な講座
でした。



最後はい
つものよう
に、みんな
で声を合わ
せて歌って、
楽しい集い
はおしま
いになりました。

NPO現代座会議の報告

8月に『風は故郷へ』の公演が終わり、現代座内では10月17日に公演の振り返りをメインに、11月21日には今後の活動についてを語り合いました。

会館の機材や設備についても、買い替えや補修について確認しました。

今後の活動予定についてご報告します。

①・現代座公演

◎2022年5月下旬

木村快が1970年以来調査発掘している『インドネシア残留日本兵の物語』を上演する予定。

◎2023年2月中旬

『出航』2幕5場の上演。

②・その他の催し物など

◎映画上映会

3階小ホールで月1回程度、日曜日上映(2022年春ごろから実施予定)

◎定期講座

現在も朗読教室やヨガ教室を開催中ですが、新たに誰でも楽しめる講座を模索中です。

どこまでできるかわかりませんが、お楽しみに!

東志野香

「風は故郷へ」をYouTubeで見られます!

2021年8月に公演した「風は故郷へ」の最終日の29日公演のビデオをYouTubeで見られるようになりました。下記URLか右のQRコードからご覧いただけます。
URL https://www.youtube.com/watch?v=mJESquAU_zY
URLの転送はinfo@gendaiza.orgまでお問合せください。



現代座会館 9月～11月 活動日誌

〔本部事務局〕

9月23日 DVD「武蔵野の歌が聞こえる」上映会
(ルネこだいらレセプションホール)
25日 「現代座レポート87号」発送作業
11月19日 「第5回川崎平右衛門研究会」小平市
第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

〔現代座ホール〕

8月31～9月26日 クロジ「白い雪と赤い華」稽古
9月29～10月3日 劇団希望舞台「すまねえな」公演
10月18～11月1日 燐光群「シアトルのフクシマ」稽古
11月17～19日 希望舞台「釈迦内板唄」稽古
20、21日 「ハトノス」稽古
22、23日 劇団仲間「森は生きている」稽古
26～12月5日 「ふるきやう」稽古

〔三階小ホール〕

10月3日 「ゲテ演隊Kユニット」稽古
18、23、24日 「スタジオ・ポラーノ」稽古
28～30日 劇団クレマチス
「ベランダのジュリエット」公演
11月14日 「ゲテ演隊Kユニット」稽古
隔水曜・木曜日 朗読教室
毎火曜・木曜日 ヨガ教室

〔二階サロン〕

9月17日 ワーカーズ新人研修まとめ
28日 「川崎平右衛門研究会」事務局会議
10月17日 NPO現代座会議
26日 「川崎平右衛門研究会」事務局会議
11月11日 「川崎平右衛門研究会」理事会
14日 緑町第2町会役員会
21日 NPO現代座会議
毎水曜日 熟年パソコンサークル
隔木曜日 iPad熟年講座

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円
協賛会員 10,000円(1口以上)
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座